

第5章 中学校の総合的な学習の時間

滋賀大学教育学部附属中学校 七里広志

0 本書はどのような形態の総合学習に適しているのか

図1に、その関係性を示す。まず、本書は滋賀県の公文書を題材としているので、滋賀県の地域話題をテーマとした総合学習に向いている（図1①～③）。また、本書は表1に挙げるようなテーマについて扱いがあり、明治～昭和初期にかけての滋賀県の歴史的事象の一事例として参考のできる資料となる（図1②～④）。総合学習のテーマや形態は各中学校によって様々だが、本章では、テーマや形態が違ってもしっかりと本書を活用いただけるよう、授業案を3つ紹介する。

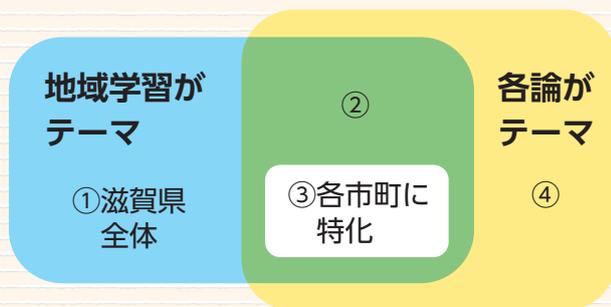


図1 本書の話題と総合学習のテーマの関係

○地域学習で滋賀県全体がテーマ（図1①）

【滋賀県の成立】

- ・滋賀県の成立（1-概、2-概、2-3）

【滋賀県全体の特色】

- ・滋賀県の交通（2-2）／滋賀県全図（2-3）
- ・郡境界（3-4）／マラリアり患者の分布（5-6）

○各論がテーマ（図1②～④）

- ・文化財保護（1-1、4-概、5-4）／城郭保存（1-2）
- ・地租改正（1-4）／近江商人（1-5）／近江米（1-5）
- ・学校（2-概）／産業・製糸場（2-概、2-1）
- ・交通（2-概、2-2、3-2、4-2、4-5）
- ・社会資本（2-概、3-5）／養殖業・漁業（2-5）
- ・民主政治（2-4、5-概）／政治（県会）（3-概）
- ・食・グルメ（3-1）／市町村（地域）合併（3-4、4-3）
- ・災害（4-概、4-4、5-概）／戦争（4-概）
- ・社会福祉（4-概、5-2）／スポーツ（4-1）／米騒動（5-1）
- ・観光（5-概、5-2、5-3）／GHQ占領（5-5）
- ・感染症・衛生（5-6）

表1 本書で取り扱われているテーマの分析

1 地域学習で滋賀県全体がテーマのもの（図1①）

（1）単元を貫く問い

- ・滋賀県は、どのような県なのだろう？

（2）育成したい資質・能力

- ・問いに対して、滋賀県全体や身近な地域に関する一次資料を整理・分析して、まとめ・表現する力を養う。

（3）単元の流れ

【導入の時期】 滋賀県について捉える。

- ・滋賀県がどのように成立したのか、また明治時代～昭和初期に滋賀県はどのように捉えられていたのか、表1「地域学習で滋賀県全体がテーマ【滋賀県の成立】」に挙げた資料をもとに、文書資料を1つ選んでワークシートに貼り、本書の解説文をまとめる。
- ・表1「地域学習で滋賀県全体がテーマ【滋賀県全体の特色】」に挙げた資料（例えば「滋賀県管内全図」、写真11）を根拠として、身近な地域は滋賀県の中でどのような地域と言えるか、「〇〇によると…という地域だと言える」といった文型でワークシートに論述させる。
- ・資料は、本書を複写して教員が生徒タブレットへ配信するかプリントとして準備する。



写真11 滋賀県管内全図
明治13年（滋賀県立図書館蔵）

2 ②④各論がテーマのもの（図1②④）

（1）単元を貫く問い

- ・あなたが選ぶテーマについて滋賀県を題材にすると、どのような課題があり、どのように解決していくべきなのだろう？

（2）育成したい資質・能力

- ・生徒自身が問いを見だし、滋賀県に関する一次資料を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を養う。

(3) 単元の流れ

【導入の時期】生徒自身が挙げたテーマに関する滋賀県の歴史的事象について捉える。

- ・表1「各論がテーマ」に挙げた資料を根拠として、生徒自身が挙げたテーマに関し、明治～昭和初期にかけての滋賀県ではどのようなできごとがあり、どのように対処されたのか、ワークシートにまとめる。
- ・その際に、テーマに最も関係が近い資料をコピーし、ワークシートに貼ってから、本文の解説文をまとめ、自身の考察を加えさせる。

例)「鉄道線路変換の儀に付上申」(記念誌p.64)によると、滋賀県の明治時代の鉄道網の充実は、鉄道で他地域へ人や物資を運ぶことを目的としたが、それには琵琶湖水運を最大限に活用していたところが現在とは違う。

- ・生徒が一度に閲覧するため、資料として本書が数冊～クラス生徒数分程度そろっていることを前提とする。または、本書をスキャナーで読んで電子データとして生徒タブレットへ配信し閲覧させることもできる。
- ・テーマは表1に挙げたことに限定されるため、生徒のテーマに最も近いものを挙げさせる必要がある。

例)「滋賀の工業」→「産業・製糸業」

「インターネットの発達」→「災害」(気象の情報公開)

3 各市町に特化し、かつテーマも全体で統一しているもの(図1③)

(1) 単元を貫く問い

- ・彦根城は、世界文化遺産に登録できるだろうか?

(2) 育成したい資質・能力

- ・彦根城の保存活動について、明治時代の彦根の人たちが働きかけたことを本書から読み取り、他の資料と関連付けて整理・分析し、まとめ・表現する力を養う。

(3) 単元の流れ

- ・彦根市内の中学校の総合学習で、上記のような地域に根付いたテーマが本書にある場合の活用例。本書の内容について、学校所在地の話題があれば、応用を試みてほしい。
- ・膳所城は廃城となったのに、彦根城はなぜ天守閣が失われずに現在に残ったのか、資料を読んでワークシートにまとめる。国や県、井伊家に彦根城を残そうという思いがあり、維持費を工面したこと等の努力が挙がる。

- ・この後、彦根城について歴史的価値や現状、観光振興策等について調べ、まとめ考察していくが、その際に本書を元に調べた内容も根拠の一つにする。

- ・資料は、P.32～35をB4両面刷り1枚のプリントとして印刷し、配布する。

第6章 高等学校の総合的な探究の時間

滋賀県立石山高等学校 武友陽平

1 単元を貫く問い

- ・話し合いにおいて異なる考え方が出てきた際、どのように意見をまとめるか。自分たちの代表を選ぶ際、どの分野での考えを重視して投票するか。

2 育成したい資質・能力

- ・異なる立場の考えを受容し、社会にとっての最善を考える力を養う。意見がまとまらない場合の着地点を探る力を養う。候補者の考えを吟味して自らの意見を政治に反映させる主権者としての資質を養う。

3 単元の流れ

【第1次】

- ・議論をする際のルールを確認する。
- ・いくつかの問いをあげ、グループでその解決方法について話し合う。

《討論の事例》

- ①歴史的価値が高い城を改修する際にエレベータを設置して上まで行けるようにすることに賛成か反対か。
- ②市町村合併に伴い市役所を置く際、市の中央に置くか、他の市とアクセスしやすい周辺に置くか。
- ③自分たちが住む市町が周辺の市町と合併をするこについて、賛成か反対か。

*その他、第2次でとりあげる事例に近い問いを設定し、議論する。

→それぞれの選択のメリット・デメリットをあげ、そのうえで何を重視して選択するかを明確にする。

→その選択により将来の社会がどのようになるかを想像する。

- ・自分の意見を理由も含めてまとめ、グループで意見交換を行う。

- ・各グループでまとめた意見を発表し、グループごとの